



特定非営利活動法人 なんとなくのひろば 通信

## 春になって、報徳会館ではウグイスの声が毎回聞かれます

- ・5月6日、通常総会を開きました
- ・聞き上手になるための勉強会を行いました
- ・発達障がい支援、この地域でできること
- ・<http://www.nantonakuno.net/>



報徳今市振興会館中庭（3月撮影）

## 第2回 通常総会報告

5月6日、第2回通常総会が日光市民活動支援センターで開かれました。出席正会員13名、表決委任者10名により、会が成立し、2005年度活動報告および決算、そして2006年度の活動計画および予算が承認されたことを報告いたします。詳しい内容について興味のある方は、総会議案書がありますので、理事にご請求ください。

昨年4月より、今市市からの援助を得て、「子どもの居場所」が週2回になり、この1年間で94日、居場所を開設することができました。参加した子どもは1日あたり平均1.1名、相談者は延べ55名、見学者は延べ222名でした。居場所への期待は大きいように思いますが、居場所の認知度を上げること、子どもたちがもっと気軽に通える環境を作っていくことがこれからの課題です。そんな中で、スタッフとして参加している若者たちの成長はめざましく、居場所、イベント、インターネットホームページなどの運営を通じ、子どもたちと交流する若者が育ってきたことは、本当にうれしいことです。こういう喜びを得られることがNPOの原点ではないでしょうか。

今年に入って、市民活動支援センターとの協力で、「発達障がい支援、この地域でできること」という集まりを始めました。2月、3月、4月と行われた会合では、(1)日光市(今市市)での「情緒学級」、「通級」

などの現状、(2)教育相談について、(3)どのような対策が考えられるか、などについて話し合いがなされました。今後もこの集まりを継続し、子どもたちのために、学校に対して私たちのできる支援のあり方を考え、作り出していきたいと思います。詳しくは3ページのレポートをご覧ください。

社会のあらゆる場所で「多様化」が進む一方、「不登校」という生き方を選択した子どもたちに対する登校圧力はむしろ強くなっています。「不登校」は子どもの「わがまま」ではなく、おとながその子に寄り添いながら、その子なりの学びを作り出すためのきっかけと考えたいものです。それは、いまの社会や学校のあり方について、子どもの権利と主体性について、私たちが考え直してみるよい機会となります。そんな思いで「なんにわ」は今年度も活動していきます。

市町村合併により、定款の目的に掲げた活動範囲、「今市市」を「日光市」に変更することにしました。この変更については今回の総会でご承認をいただきました。したがって、今年度からの活動は「日光市とその周辺」という広大な範囲になります。新しい仲間を増やし、活動の輪を広げていきたいと思います。みなさまの変わらぬご協力ご支援をよろしくお願いいたします。(手塚)

### 目次：

第2回 通常総会報告	1
聞き上手になるために	2
サイエンス・カフェ	2
発達障がい支援	3
植物観察	3
活動目的・入会のお願い	4

「なんとなくのひろば」に集う子どもたち、報徳会館の庭でバドミントン、近くの勤労青少年ホームで卓球など、活発に動きまわっています。



5月20日(土)は障がい者支援のNPO法人「雑草」の企画に「まにまに工房」とともに参加。子どもたち3名、スタッフ3名、大笹牧場でハイキングを楽しんできました。子どもたちの友情がさらに深まったことでしょう。

## 聞き上手になるために



人はみな、聞いてもらえる人がいれば、話したい存在だとつくづく思います。しかしそのためには聞いてくれる人が必要です。「なんとなくのひろば」の活動を始めてから、見学に来る人の数や相談者の数が増え続けています。この「なんとなくのひろば」が地域社会で役立つしていくために、今必要とされているのは、「安心して話を聞いてもらえる場」の提供かもしれません。

そこで、聞き上手になるための勉強会〈聞きあうワーク〉を開きました。

その中で参加者が気づいたことを書いてみました。

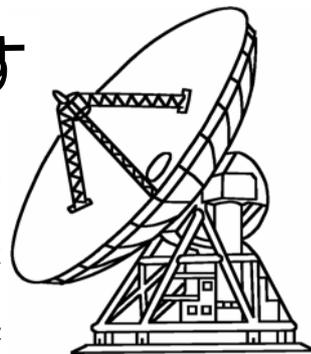
- ・真剣に話を聞いてもらえると、どんどん話したくなる。
- ・アドバイスはなくても、聞いてもらえただけで安心する。
- ・相づちや表情は意外と大きな効果がある。(大げさすぎてもいけない場合がある。)
- ・人はみな自分の尺度(ものさし)で世の中を見ていて、人の話もつい自分の尺度で測って聞いてしまう。結果としてアドバイスや批判をしたくなる。
- ・沈黙があると、焦ってしまう。

このような勉強会は、たびたび継続していくことが重要です。おごることなく、少しでも相手に寄り添える聞き方を心がけたいと思います。(白井)

なんにわ

な ん に わ 科 学 茶 会

## 「サイエンス・カフェ」を始めます



**Q:「サイエンス・カフェ」って何ですか？**

T(手塚・言い出した人):好きな音楽の話をするように、スポーツを話題にするように、気軽に科学について話せないだろうか。もっと科学を身近に感じてほしい。そんなことをずっと前から考えていたのです。同じようなことを考えている人はいるもので、最近、あちこちでそんな試みが始まりました。要するに、科学をダシにお茶を飲む会です。

**Q:「サイエンス・カフェ」って名前は？**

T:はじめ、「科学茶(話)会」という名前を考えていました。周りの人に聞いたところ、「クラシックで良いけれど若者には受けない」と不評で、インターネットで調べてみたら「サイエンス・カフェ」が広く使われていることがわかりました。誰が作った名前かは知りません。これだと若者も集まってくるかなと...そのまま借用することにしました。

**Q:科学を話題にするというと、なんだか難しそうですね。**

T:参加者が自由に質問し、講師が答えるといった形を進めていきたいと考えています。予備知識はいりません。その場で理解し、納得のいくように、「科学についての世間話を楽しむ」といった雰囲気を作りたいものです。

**Q:第1回目は宇宙の話題ですね。**

T:講師を田原博人さんをお願いしました。大学で、田原先生の「天文学」の授業を受けたり、論文にアドバイスを頂いたりしているので、私自身は「先生」と呼んだ方が落

ち着くのですが、会の趣旨から「さん」と呼ばせていただきます。田原さんの専門は電波天文学。宇宙に関する話題になるでしょうが、細かいテーマは決まっていません。その場に集まった方々の質問からスタートします。

**Q:準備は何もいらないのでしょか。**

T:お茶とケーキを用意しますので、申し込みをお願いします。この「サイエンス・カフェ」、これから定期的な会に育てて行きたいと考えていますが、私たちはまだまだ力不足です。運営にご協力いただける方、講師をご紹介いただける方、私の得意分野で講師をやってみたいという方、ぜひ、「なんとなくのひろば」にご連絡ください。

**第1回 日時:2006年6月4日(日)  
午後1時30分~3時**

**場所:報徳今市振興会館**

**主催:NPO法人 なんとなくのひろば**

**後援:日光市教育委員会**

**参加費:500円(お茶、お菓子代)**

**お問い合わせ:電話・FAX 0288-21-2631(手塚)**

# 発達障がい支援、この地域でできること

**場 所:**日光市民活動支援センター  
**主 催:**日光市民活動支援センター  
**共 催:**NPO 法人なんとなくのになわ  
**後 援:**日光市教育委員会(予定)、参加費:無料  
**問い合わせ先:**日光市民活動支援センター  
**TEL & FAX** 0288-22-2271

1月のぽぼら茶論での集まりを受け、発達障がいの子どもたちのために、学校サポートボランティアの導入、「気軽に行ける相談窓口」などについて話し合い、実現していこうという会です。鹿沼北中の福田由美さんをアドバイザーにお迎えしています。一ヶ月に1回のペースで集まっています。次回の期日は支援センターまたは「なんとなくのになわ」にお問い合わせください。

## これまでの話し合いの内容

### 1. 鹿沼市の現状(アドバイザーからの報告)

- 1) 子どもへの支援を考える親の会が2つある。
- 2) 鹿沼市教委に(H11年頃)教育研究所を設置。臨床心理士を4名配置している。相談窓口の敷居が低く、親も教師も相談しやすい。
- 3) サポートボランティアとして母親、学生、地域の有志などを受け入れている。学生ボラの有償化も検討。
- 4) サポートボランティアの研修を市教委が行う。
- 5) 各学校では子ども達一人ひとりに合わせた「寄り添う支援」を行っている。通級リミットは週8時間の規定だが、現実には10時間以上を越える子が多い。通級に入れるかどうかは学校独自で判断。

### 2. 今市市の現状

- 1) 教室にいられない子たちについては、情緒学級を経て、特定の教科から普通教室の授業に出ることができるようになるよう指導。
- 2) 保護者に「情緒学級」に子どもを入れることの抵抗が大きい。内申書等にどう書かれるのか気にしている。きちんとしたガイダンスが必要。
- 3) 相談に行く場所がないし、距離も遠い。敷居が高く感じる。ふぉーゆう、県総合教育センター、国際医療福祉大言語聴覚センター等についても同様

先進例(栃木市のサポートセンター、鹿沼の教育研究所)、教員からの直接の要請で助言者が現場に出向く仕組みを作っている自治体(埼玉)もある。

- 4) 授業中、じっとしてられない児童が多数いるクラスの指導は大変。親も不満を持つ。担任と副担任以外にも支援者が必要。

### 3. あるべき支援

- 1) 学校サポートボランティアの仕組みが必要。
- 2) 各学校、市教委、ボランティア団体、NPOなどがどう連携していくかはこれから調整が必要。
- 3) 各学校、地域の情報を把握している相談窓口。どんな仕組みが必要か。

今後の動きについては、この通信でもお知らせしていきたいと思います。

学校の現状について、求められる学校支援の仕組みについて、自分たちに何ができるか考えるための集まりです。このような自由な意見交換が学校と地域の新しい連携を作り出すことにつながると私たちは信じています。興味を持つ方の参加を歓迎いたします。ぜひ、話し合いに加わってください。(西尾)



なんとにわに咲いているたんぼぼは西洋たんぼぼです。西洋たんぼぼが多くて関東たんぼぼなどの日本の固有種のたんぼぼが少なくなっているそうです。西洋たんぼぼと関東たんぼぼの違いは、花の下のガクっぽいところが反り返って離れているかどうかです。関東たんぼぼはもっとびたっとくっついているそうです。

## 報徳会館の庭の植物観察会 (4月14日)

先週は天気が雨の日ばかりでしたが、植物観察の時はなんとか晴れてくれました。ただ、それでも風が強くて肌寒い日でした。子供たちも最初は消極的で大人に促されて参加をしていましたが、観察会が始まるとそれなりに興味を持ってくれたようです。植物観察会を開いてくれた前田さんはスギについて説明しようとしたのですが、この日は風が強くと、花粉が飛ぶのを嫌がった参加者はその場所から離れていってしまいました。スギの花について話すつもりだったようでさらにその先の話も前もって考えていたそうですが、全部吹っ飛んだと言っていました(笑)。

報徳会館の中庭ではアリジゴク探しなどもやりました。僕個人としては報徳会館の南側の、日の当たるところ一面にたんぼぼが咲いていたのが印象的でした。観察会をするまで全然気付かなかったのが不思議ですね。

(Numata)

特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒 321-1261 日光市今市 378

電話/Fax 0288-21-2631

E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください

http://www.nantonakuno.net/



## 私たちの活動目的：

今市市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

## 私たちの事業：

子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営  
子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発  
インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援

教育についての相談や情報提供活動  
学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動

自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

## 活動報告

- 1月 7日(土) 第7回 理事会
- 1月20日(金) 「ぼぼら茶論」
- 1月22日(日) ベリー会(宇都宮・福祉プラザ 吉成)
- 1月28日(土) 「とちぎ不登校フェス」(仮)準備会(沼尾)
- 1月29日(日) とちぎボランティアネットワーク主催行事(DV関連分科会、手塚)
- 2月12日(日) 「CAPおとなワークショップ」開催  
午後2時～4時 中央公民館小ホール
- 2月16日(木) スクラムネットワーク参加
- 2月19日(日) ベリー会(宇都宮・福祉プラザ 沼尾、吉成)
- 2月19日(日) 登校拒否ひきこもり「どうすればいいの？」  
内田良子さん 講演会(沼尾、西尾、相談者)
- 2月24日(金) 「発達障がい支援、この地域でできること」開催  
市民活動支援センター
- 2月25日(土) 「とちぎ不登校フェス」(仮)準備会(沼尾)
- 3月 4日(土) 第8回 理事会
- 3月24日(金) 「発達障がい支援、この地域でできること」
- 4月24日(月) 「発達障がい支援、この地域でできること」
- 5月 6日(土) 第9回 理事会、第2回 通常総会

## 現在の会員数

正会員 29

賛助会員 10

団体会員 3

入会金はありません。

年会費(一口)は以下のとおりです

正会員 3,000円

賛助会員 個人 5,000円

団体 10,000円

会員の継続をよろしく願います。

次回理事会：7月2日(土) 午後7時30分より9時  
日光市民活動支援センター

## なんとなくのへや

「なんとなく」という単語は学校などの教育の場では、あまり使いたくない言葉のひとつになってしまっています。膨大な予算をかけて「なんとなく」技術開発をやったり、会社を経営したりというのはあり得ないし、もしあったとしても失敗は目に見えています。つまり「なんとなく」と今の競争社会は折り合いが悪いのです。「なんとなく」数学をやったり、「なんとなく」旅行をしたり、小説を読んだり、ゲームをやったり、もしかすると「なんとなく」人生を送るというのも、それほど悪いことではない。そんなふうにブンガク的に考えもしますが、やはりNPOが「なんとなく」ではおさまりが悪いような気もする。さいわい、この名前は定着し、自分の中でもだいが落ち着いてきた感じがします。けれど、2年前、市民活動支援センターのロビーで会の名前を考えていたとき、子どもたちが発した「なんとなく」は、過酷な競争社会への彼らなりの疑問符だったのではないかと思いつきがあるのです。この5文字のひらがなは、魔法の呪文のように、私のふるまいやかんがえを微妙に支配しているのかもしれない。先日の植物観察、じっくり眺めると、植物の形、生き方に感心させられます。ヒメオドリコソウ、それこそ「なんとなく」咲いているように見えるけれど、どうやってこんなに幾何学的な形になるのでしょうか。(T)



報徳会館の庭に咲くヒメオドリコソウ